**常陸大宮市の文献調査受け入れは、市民の声を聞いて再検討を！**

2026 年 10 月 15 日

『「核のゴミ」地層処分問題の全国声明に取り組む会』世話人会

常陸大宮市長は 2026 年 9 月 30 日に、国より申し入れがあった文献調査を受け入れました。しかし、この決定は国からの要請からわずか 1 か月というきわめて短時間の決定であり、かつ住民への説明会などは全く開かれませんでした。市議会でも本会議での議論はなく、非公開の議員協議会で議論しただけという不十分なものであり、市民の理解も得られていない状況だと思います。

文献調査は非常に危険な高レベル放射性廃棄物（「核のゴミ」）の地層処分[注 1]（地下に埋める）の最終処分地の選定過程で、最初のステップに位置づけられるものであり、十分な時間をかけて検討し、とくに市民の納得を経て決められるべきものです。そのような点からみても、今回の受け入れ決定のやり方は、市民の声を反映していない、きわめて大きな問題をはらんでいるものと思わざるを得ません。

私たちが世話人を務める『「核のゴミ」地層処分問題の全国声明に取り組む会』は、2023 年 10 月 30 日に、300 名を超える地学専門家の賛同を得て「世界最大級の変動帯の日本に、地層処分の適地はない－現在の地層処分計画を中止し、開かれた検討機関の設置を－」という声明を出しました[注 2]。この声明では、日本列島は地殻変動が激しく不安定な地質状況にあり、「核のゴミ」の地層処分に適した場所の選定は、現在の科学的知見では不可能であると指摘しています。

常陸大宮市も例外ではなく、その東縁部に棚倉破砕帯という第 1 級の断層破砕帯（構造線）が確認されています[注 3]。その一部の断層は、東海第二原発（東海第二発電所）の安全評価では推定活断層とされており、その活動によって M7.0 の地震被害が想定されています。この断層は大きな破砕帯（断層によって形成された脆弱な地層）をもつことから、常陸大宮市を含む広範な地域において将来的に大地震が引き起こされる危険性を無視することはできません。本市の西側に分布する中生代付加体（海洋プレートの動きで変形した地層）にも多くの断層帯と破砕帯があることから、巨大な地下施設の建設には不向きと考えられます。地震については M7.2(1895 年／霞ケ浦付近)、M7.0（1921 年／竜ケ崎付近)、M6.5（1930 年／那珂川下流域）など規模の大きな地震が頻繁に発生しています。また、2011 年の東日本大震災が発生した太平洋沿岸域に近接し、今後の長い期間には太平洋沿岸域で大規模な地震が発生する可能性が大きいことも忘れてはなりません。

地下 300m 以深に埋められる「核のゴミ」の放射能は、天然ウラン鉱石が持つれべレベル（有害性あり）に戻るまでに約 10 万年かかるとされています。この間に上記のような地殻変動の影響による保管容器の破損や劣化、それによって起きる放射能漏れの危険性はきわめて高いと考えられ、さらに漏洩した放射性物質が地下水を経て人間の生活領域にもたらされる可能性も否定できません。

「核のゴミ」の地層処分については、自然科学、人文・社会科学を総合した全面的な見解を 2012 年に学術会議が出しており[注4]、これを最も基本的な視点として考慮すべきことを指摘しておきます。

以上のように、「核のゴミ」の地層処分については、地震・地質・地下水のさまざまな見地から、常陸大宮市の環境保全と未来への安全についての熟慮にもとづき、今後の文献調査への対応として、常陸大宮市はおもに以下の点に配慮した対応をとるべきと考えます。

1．常陸大宮市における地質状況について、考え方の異なる専門家を招き、市民、住民に説明する機会を確実に設けること。

２．外国では受け入れ決定過程において、ていねいな説明と議論の場をつくり、市民、住民の意見を十分に汲み上げながら、その受け入れ可否を決めている例があることから、文献調査に関しても市民参加による十分な議論の場をつくり協議すること。

以上の 2 点を実施していただき、長期的・大局的な見地から、未来世代にも責任ある対応をとるために、文献調査の受け入れを再検討すべきと考えます。

『「核のゴミ」地層処分問題の全国声明に取り組む会』世話人会
赤井純治、岡村　聡、金井克明、関根一昭、松本俊幸
（連絡先　金井克明　kanai-jy@joetsu.jp）

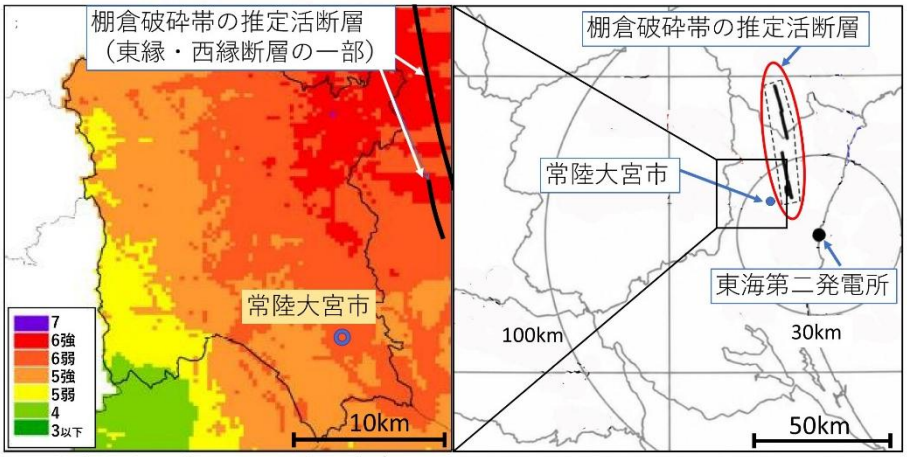
==========

**注１：地層処分の概念図はこちら**
https://www.ene100.jp/zumen/8-3-8

**注２：声明文はこちら**
http://www.chichibu.ne.jp/~sekine-kz56/zenkokuseimei

**注４：日本学術会議の見解はこちら**
全体は 42 ページの長文ですが、
ii ～ iv 頁に概要があります。
https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-k159-1.pdf

**注３：棚倉破砕帯の推定活断層**




地震被害想定調査による震度分布[1]
（棚倉破砕帯の推定活断層[2]を加筆）
東海第二発電所審査会合資料
（日本原電，2016を一部簡略化・加筆）

1）茨城県地震被害想定調査（2019年3月）
2）東海第二発電所審査会合資料
（日本原電，2016）